

# 福島第一原子力発電所の廃炉に向けたプロセス

# 廃炉を知る

今、知りたい、ふくしまのこと。

2019年  
3月15日号 Vol.8

次回発行予定:2019年6月15日

発行/福島県原子力安全対策課

<http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/16025c/>

福島県原子力安全対策課 検索



## 数字で見る1F

(福島第一原子力発電所)

### 1Fのこと

1Fで働く東電の職員数

約**1,000**名

男女の比率



女性職員の就業エリア

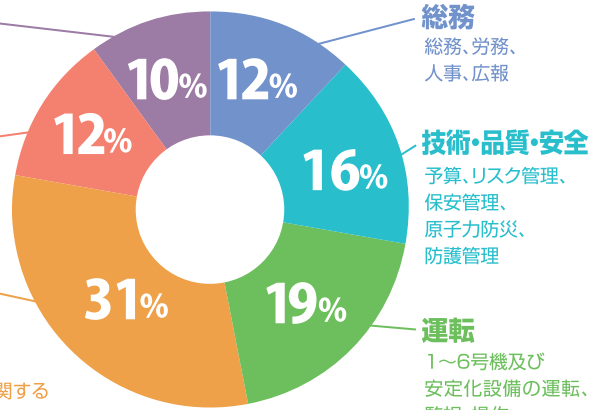
2014年11月から構内全域で就業しています。法令を守るため女性は3ヶ月で4ミリシーベルトを超える作業や特定高線量作業には従事できません。東京電力福島第一原子力発電所では、適切な放射線管理を行っています。

分野別の割合

**放射線・化学**  
放射線管理、環境モニタリング、廃棄物管理

**土木・建築**  
構内の土木・建築工事及び保守管理

**機械・電気**  
原子炉注水設備、使用済燃料プール冷却設備の保守管理、電源設備や水処理に関する保守管理



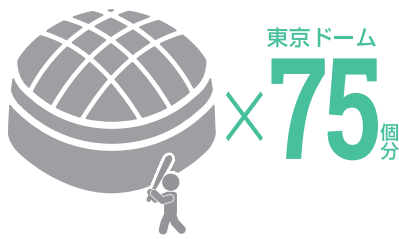
**総務**  
総務、労務、人事、広報

**技術・品質・安全**  
予算、リスク管理、保安管理、原子力防災、防護管理

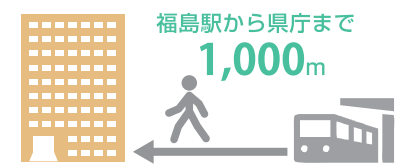
**運転**  
1~6号機及び安定化設備の運転、監視、操作

■大きさ比べ

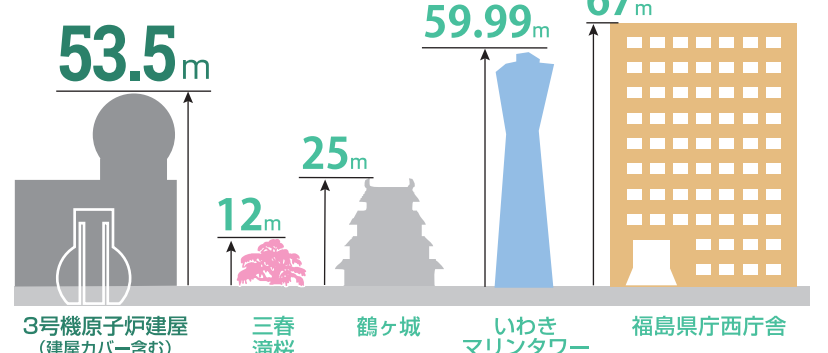
●構内の広さ—**350**万㎡



●凍土遮水壁—**1,500**m

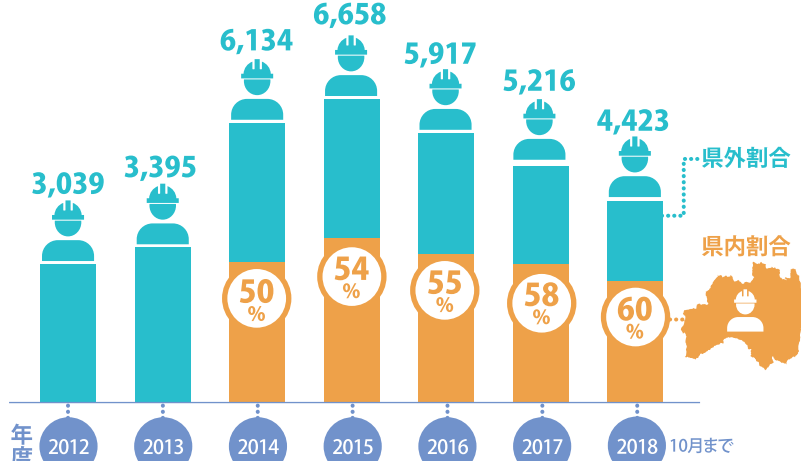


■高さ比べ



## 作業員のこと

■作業員の数(1日当たり平均)単位:人



2012年度及び2013年度は、割合のデータがありません。

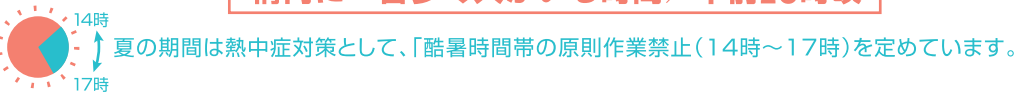
■作業員を支えるデータ



■福島第一原子力発電所の勤務時間/8:30~17:10



■熱中症対策



## 構内の線量のこと

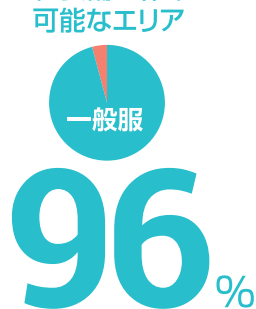
■放射線量



■モニタリングポストの数

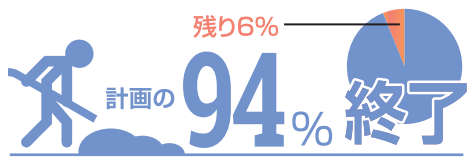


■軽装備で作業が可能なエリア

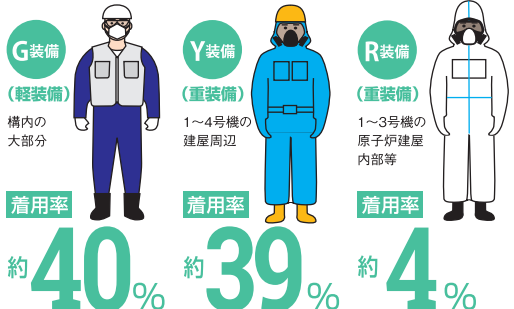


■構内のフェーシング(地表面舗装)作業

構内の環境改善及び汚染水対策のためのフェーシングと除染によって、構内の放射線量は大幅に減少しました。

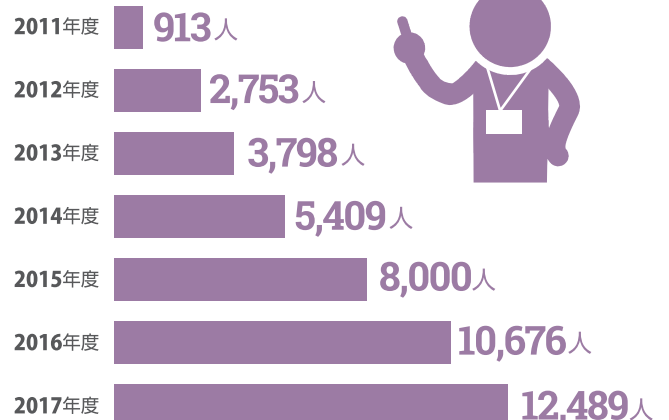


■作業時の装備



## 視察者のこと

■視察者数



目標 2020年度に年間 **20,000**人

福島第一原子力発電所に関するデータは、東京電力ホールディングス株式会社の各種資料を参照しています。



## 特集

## 福島県の安全確認体制

## 廃炉安全確保県民会議

### 廃炉安全確保県民会議は

### どんな事<sup>①</sup>をしているの？

「廃炉安全確保県民会議」(正式名称:福島県原子力発電所の廃炉に関する安全確保県民会議)では、国や東京電力が行っている福島第一原子力発電所の廃炉に向けた取組の状況を、会議や現地視察を通じて、「県民の目線」で確認しています。

会議は、年4回開催され、東京電力や国から廃炉に向けた取組や進捗の説明を受け、作業が安全かつ着実に進むよう幅広い意見が出されています。また、現地視察では、年度当初に福島第一原子力発電所構内を視察し、廃炉の進捗を直接確認しています。年度後半の視察では、廃炉に関する研究施設などを訪問し、廃炉を取り巻く状況や体制について理解を深めています。



会議の様子



廃炉資料館を視察する様子

### どんな人<sup>②</sup>がメンバーなの？

関係する  
**15**  
団体

関係する13市町村の住民や福島県内の各種15団体の代表者がメンバーとなっています。また、学識経験者もメンバーとなっています。

関係する  
**13**  
市町村



#### 【各種団体】

福島県女性団体連絡協議会 / 公益財団法人福島県老人クラブ連合会 / 福島県PTA連合会 / 福島県消費者団体連絡協議会 / 福島県生活協同組合連合会 / 公益財団法人福島県観光物産交流協会 / 福島県旅館ホテル生活衛生同業組合 / 福島県飲食業生活衛生同業組合 / 福島県商工会議所連合会 / 福島県商工会連合会 / 福島県中小企業団体中央会 / 福島県農業協同組合中央会 / 福島県漁業協同組合連合会 / 福島県森林組合連合会 / 福島県酪農協同組合

## 県民会議の<sup>③</sup>声

### どのような思いで県民会議に参加していますか。

- 原発事故により「起きたこと」、「今の状態」、「今後の対処法」を知りたいと思っています。避難生活をしなければならなかった町民のことも知ってほしいと思います。
- 多くの人が分からないことがたくさんあると思います。そのような方と同じ目線で聞いて、理解したいと思って参加しています。
- 町民の廃炉に対する「想い、期待」を代弁できればと思っています。
- 全国的に関心が薄れていますが原子力への不安はなくならないと思います。廃炉に向けた取組についての議論や福島第一原発の現状を発信したいと考えています。
- 町の代表として、廃炉がどのように進められているかを確認するという思い。

### 県民会議が果たす役割についてどう考えていますか。

- 町民の責任として、東京電力の取組を見て、聞けるのが県民会議だと思います。
- 地元の方々や様々な団体から幅広い県民が参加し、それぞれの課題について意見を述べています。国や東京電力が、県民の素直な意見が聞ける場だと思います。
- 廃炉について、県民の立場から意見を言える機会があることは極めて重要だと考えます。
- 住民目線での対応を求めて、県民に認知される役割を担っています。
- 原発事故が、将来にわたり、重大な課題を県民に残していることを東電に重く認識していただき、謙虚な対応を求めています。
- 東京電力に対して、地元の声を伝える場。

### 廃炉安全確保県民会議からのお知らせ

廃炉安全確保県民会議の予定は、県原子力安全対策課のホームページに掲載しますので、傍聴を希望される方は、当日会場にお越しください。また、会議の様子は、ライブ配信も行っていますので、是非ご覧ください。

問合せ先 ● 福島県原子力安全対策課 電話 ● 024-521-8054



### キビタンが聞いてみた!「正しく恐れる」 廃炉を見続け、理解することで見えてくるもの

【議長として、県民会議はどのような場だと思いますか?】

県民として廃炉の状況を正しく理解ができる場であると思います。県民会議は、国や事業者など、廃炉に関係する組織が一堂に集まるので、住民の様々な質問に適切に答えていただいています。会議を通じて、怖いところは怖い、怖がらなくていいことは怖がらなくて済むように理解を深め、「正しく恐れましょう」ということを伝えたいと思っています。

会議で皆さんの意見を聞いて「こういう捉え方をしているのか」と思うことがよくあります。廃炉作業の進捗に対して、専門家だけでは気づかないような住民の素直な視点で、住民が安心できるような廃炉作業を進めてもらうための意見を伝えていく場であるとも思います。

【何度も1Fに足を運ばれていますか? 事故後初めて行った時の印象は?】

事故後初めて原発に行った時は、「ビレッジ」からタイバックに着替えました。暑い時期で、全面



マスクが曇って見えなくて、苦労しました。最初に入った時の計画線量は、トータルで200マイクロシーベルトぐらいでしたが、恐怖心はありませんでした。放射線は、きわめて高精度で測れるので、知っていればこそ不安はなかったということです。逆に、現場を見て、ここまで入れるんだと安心した記憶があります。

【どのようなところで原発の中の変化を感じましたか?】

最初に進んだなど感じたのが、フェーシングで

きれいになり空間線量が下がったこと。次は食堂が出来て、コンビニが出来て、サイトの中であたたかい食事が食べられるようになったこと。

最近では、マスクなしでも行けるエリアが出来たこと。

【進捗を実感した作業はどのようなものですか?】

2014年の4号機の燃料取り出しですね。ここまで出来るんだなど。

それから、凍土壁もよく作ったなどと思います。様々な議論はありましたが、サブドレンの水位をコントロールできるようになって、結果的に役に立っています。

今のところ順調に進んでいると思いますね。個人的には、私が直接現地に行ける間に、全ての使用済燃料が取り出されるところまでは見たいなどと思っています。

【次世代に対して思われることはありますか?】

廃炉作業の課題を見つけて、自分の技術を磨いて、解決してほしいと思います。廃炉作業にも山ほどの課題があって、世の中の人ややっていないことがいっぱいあります。そういった課題を新しい技術で解決して行って、さらにその新技術を一般分野に応用して、役に立ててほしいと思います。

原子力は、いろんな分野の結集なんです。物理、電気、機械、化学、材料、情報。いろんな分野を統合して初めて問題が解決する分野なので、是非チャレンジしてほしいです。

【県民に向けてのメッセージ】

まず、廃炉の状況を理解して、正しく恐れてほしいと思います。そして、廃炉作業が風化しないように見守ってほしい。廃炉をごみ処理とは思わずに、最先端の技術を作る機会だと思ってほしいです。



今回は

公立大学法人会津大学名誉教授  
福島県原子力発電所の廃炉に関する安全確保県民会議議長  
兼本 茂さん

原子力工学を専門にされている兼本さんは、原子力の安全性を研究されてきました。2005年から会津大学で教鞭を執り、「組み込みシステム」の安全性を研究されてきました。組み込みシステムは、携帯電話のような身近なものをはじめとし、車や家電製品のようにコンピュータが組み込まれたシステムのことで、原子力プラントもそのひとつです。

## TOPICS

### 原子力防災訓練

福島県では、新たな原子力災害が発生した場合に備え「原子力防災訓練」を毎年実施しています。

今回は地震により、福島第二原発の使用済燃料プールの水位が低下したという想定の下に訓練が行われました。2019年1月21日の訓練には122機関から約420名が参加し、県庁の危機管理センターを使用した災害対策本部の設置とその運営の訓練等が行われました。26日には雪の中、富岡町の皆さんにご参加いただき、郡山市への住民避難訓練が実施されました。あわせて、スクリーニングや避難の途中で発生した傷病者への対応の訓練も行われました。



### 編集後記

2月13日に福島第一原子力発電所の2号機の燃料デブリの固さなどの状態を調べ、装置を使って溶け落ちた核燃料(燃料デブリ)に触れる調査が行われました。燃料デブリの取り出しに向けた一歩となりますが、廃炉の取組が安全に、そして着実に進むように、丁寧な対応を期待します。

